

## ウリ類のつぎ木に関する研究

## (第6報) 穂木の発育に対する台木葉の影響

近藤雄次・田中幸孝

(福岡県園芸試験場)

KONDO, Y. and TANAKA, Y.

Studies on the Grafting of Cucurbitaceae Species

(VI) Effects of stock leaves on the development of scion

さきに筆者らは、共生親和力を欠ぐユウガオとマクワウリのつぎ木組み合わせにおける穂木の発育や台木根群の発育が台木葉の存在によって種々の程度に変化することを報じたが、今回は台木葉の遮光処理や、親和力の異なる数種のつぎ木組み合わせについて、その影響の現れ方を調査した。

## 試験方法

穂木にはマクワウリ (F<sub>1</sub>金福) を、台木には親和力を欠ぐユウガオ、親和力の不十分な白菊座カボチャおよび親和力の強い新土佐カボチャを用い、3月19日につぎ木して、発育の良い苗を厳選し、4月18日にトンネル内に定植した。試験区の構成は第表1のとおりで1区当り供試株数は5株、1区制とした。

## 試験結果

親和力を欠ぐユウガオを台木にした場合は、台木葉の少ない区ほど穂木の発育悪く、台木葉の多い区ほど発育大で台木葉数と穂木発育量との間に明らかな正の

第1表 試験区の構成

試験区	台木の種類			
	ユウガオ	白菊座	新土佐	
A	○			Cont
B	○	○	○	台葉全除
C	○			子葉1枚
D	○			〃 (遮光)
E	○	○	○	子葉2枚
F	○			〃 (遮光)
G	○	○	○	子葉2枚+本葉2枚
H	○			〃 + 〃 (遮光)
I	○	○	○	子葉2枚+本葉4枚
J	○			〃 + 〃 (遮光)

相関を認めたこのつぎ木組み合わせにおいて台木葉を遮光した区は、遮光しない区に比べて生育著しく悪く、遮光した台木葉は穂木の発育にほとんど関与しなかつた。供試台木のうち最も親和力の強い新土佐カボチャを台木にした場合は、穂木の発育に対する台木葉の影響最も少なく、親和力の不十分な白菊座カボチャを台木にした場合は、わい化症状をともなつて枯死する株が、台木葉全除区に50%、台木子葉2枚区に25%それぞれ発生を見た。

第2表 穂木の発育におよぼす台木葉の影響 (ユウガオ台マクワウリ)

試験区	親づる長 (cm)	同 指 数	葉 数 (枚)	同 指 数	最大葉の		生 体 重 (g)	同 指 数
					大 小	指 数		
A	157.0	100	33.0	100	18.2	100	514.0	100
B	枯死	—	—	—	—	—	—	—
C	76.0	48.4	21.0	63.6	7.4	40.7	66.3	12.9
D	枯死	—	—	—	—	—	—	—
E	86.5	54.9	22.5	68.2	8.0	44.0	91.3	17.8
F	46.8	29.8	18.0	54.5	7.9	43.4	39.0	7.6
G	125.2	79.7	25.3	76.7	12.4	68.1	236.3	46.0
H	58.8	37.5	19.0	57.6	7.3	38.6	39.0	7.6
I	135.6	86.4	27.0	81.2	15.3	84.1	330.0	64.2
J	63.9	40.7	20.5	62.1	7.9	43.4	62.9	12.2

第3表 穂木の発育におよぼす台木葉の影響 (新土佐台マクワウリ)

試験区	親づる長	葉 数	最大葉の大きさ (縦径, 横径平均)	生 体 重
B	81.8	84.8	90.7	83.3
E	74.1	84.2	100.0	84.1
G	80.2	84.8	104.4	93.7
I	76.3	82.7	111.5	102.1

\* 数字は対々照区指数

第4表 穂木の発育におよぼす台木葉の影響 (白菊座台マクワウリ) (対々照区指数)

試験区	親づる長	葉 数	最大葉の大きさ	生 体 重	枯死 株率 (%)
B	61.4	83.1	80.3	34.2	0
E	73.1	92.3	98.5	84.9	0
G	71.6	86.2	101.5	109.6	0
I	61.0	76.9	91.7	72.6	0